

2021年5月26日 DENSO DIALOG DAY 2021 社長挨拶

皆さま、社長の有馬でございます。
本日は、ご多用の中、「DENSO DIALOG DAY 2021」にご参加いただき、誠にありがとうございます。
また、皆さまには、日頃からご支援賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

このダイアログデーでは、
経営陣自らが、皆さまと「対話」させていただくことで、
弊社の戦略やそこに込めた思いを、より深くご理解いただければと考えております。
新型コロナウイルス感染防止対策として、あいにくのオンライン開催となりますが、
ご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

本日の流れとしましては、前半では、
弊社がどのような価値を社会にお届けしたいと思っているのか、
我々の戦略をお伝えいたします。

後半の「対話セッション」では、
皆さまの関心事や、期待値をお聞かせいただき、
一つひとつ、丁寧に、お話しさせていただきたいと思っております。
ぜひとも、忌憚のないご意見・ご質問をいただけますと、幸いです。

では、私からは、足元の環境認識や今後の経営方針について、
お話しさせていただきたいと思っております。

まず、20年度を簡単に振り返りますと、
新型コロナや自然災害など多くの危機に見舞われた、まさに大惨事の一年でした。
そのような状況下でもなんとか生産活動を維持し、供給を続けることができたのは、
お客さまやお取引先さまをはじめとするステークホルダーの皆さまのおかげに他なりません。
いかに多くの方々に支えられて弊社の事業が成り立っているのか、
クルマ一台一台、部品一つ一つのありがたさを、身に染みて感じた一年でした。
改めまして、心から感謝申し上げます。

加えて、昨年は危機管理の重要性を痛感した年でもありました。
度重なる供給危機に、取引先の皆さまと共に必死に取り組んでまいりましたが、
多くの場面で生かされたのは、東日本大震災など過去の経験でした。
震災を経験した関係各社との速やかな連携と迅速な初動対応が、
被害の最小化と早期復旧の一因でもあったかと思っております。
昨年の経験も、未来への大事な教訓として、「危機は必ず訪れる」という前提のもと、
危機管理を最重要課題の一つに位置づけ、
予兆の把握や初動の訓練など、取り組みを強化してまいります。
さらに昨年は、世の中の価値基準が大きく変わった一年でもあったかと思っております。

コロナによって、生活様式や働き方、コミュニケーションのスタイルが激変し、仕事の価値や人と接することの価値、移動の価値を見つめ直すことにもなりました。

そして、世界を大きく揺り動かしているカーボンニュートラルも、ビジネスや消費の価値基準を急激かつ甚大に変化させつつあります。これからは、製品そのものが環境に優しいだけでなく、その製品をつくる・運ぶ・廃棄する過程もクリーンであることが、良品の条件、取引の前提となります。これまで価値があると思われていたものが、カーボンニュートラルという新しい「ものさし」によって見直され、買っただけの製品や選んでいただけの企業の基準がガラリと変わっていくこととなります。これは、「モビリティ領域」を主戦場に、「モノづくり」を得意としてきたデンソーにとって、「非車載向け」製品の開発というレベルにとどまらない、「非デンソー」ビジネスの開拓という挑戦に他なりません。つまり、デンソー自身が、新しい存在価値を問われているのだと思います。

そこで、昨年から始めた Reborn21 という活動を通じて、「環境と安心の取り組みによって、社会から共感され、すべての人に笑顔広がる未来を届けること」それこそが、弊社の大義、すなわち存在価値であることを再認識・再浸透させてまいりました。そのような会社に生まれ変わるための体質強化や土台作りに専念したのが、この一年間でした。そして、今年は、新しいデンソーのスタートを切る年にしたいと考えております。

従来から取り組んでいる環境と安心という軸はぶらさず、弊社が貢献する領域を、「モビリティ」と「モノづくり」から、新たに「ソサエティ」まで広げ、より多くのお客さまのお役に立てるよう、新しい選択肢・新しい価値の創造に挑んでまいりたいと思います。

環境においては、CO₂ゼロを目指して、世界初・業界初への挑戦を通じ、デンソーならではの技術と技能によって、新たな可能性の扉を開いてまいります。カーボンニュートラル実現への道筋には、いくつか選択肢があり、国や地域によるエネルギー政策や発電・送電事情の違い、BEV、HEV、PHEV、FCEVに加え、水素エンジンやeフューエルなど動力・燃料の違い、乗用車と商用車、大型トラックと小型トラックといった、用途やサイズの違いなど、多様なニーズ・多様なソリューションに対応することが必要かと思えます。弊社としましては、選択肢を広げるための技術開発を加速させ、モノづくりでのCO₂排出ゼロ、モビリティ製品によるCO₂削減、生活におけるエネルギー利用時のCO₂排出ゼロ、こうした幅広い領域において、カーボンニュートラル社会の実現に貢献できるよう、お客さまやサプライチェーンと連携させていただきながら、尽力して参ります。

安心においては、交通事故ゼロのためには、普及も極めて重要と考えています。
先進安全機能の新車搭載だけでなく、
保有車・中古車の安全性能の向上にも取り組み、
世界の自動車市場や交通インフラ事情の違いに対応できるような、
より多くの選択肢をご提示できればと思います。

なお、世界の新車販売台数は、新型コロナ前の2019年では約9,000万台、
世界の保有台数は14億台以上であることを考えれば、
環境でも、安心でも、保有車をカーボンニュートラル化することや
保有車に後付け安全装置を搭載することのインパクトは計り知れません。
こうした取り組みも、引き続き使命感を持って貢献してまいります。

また、モビリティにとどまらず、より広く社会に貢献すべく、
ソサエティ領域では、まちづくりや農業支援など、
「非デンソー」ビジネスによる新しい価値創造に挑戦してまいります。
地域ごとに異なる社会の困りごとに寄り添うため、
デンソーのネットワークだけでなく、サービス店や修理工場など、
地域に根ざしたパートナーと密に連携しながら、
弊社の強みであるメカ、エレクトロニクス、ソフトウェアの三位一体を生かした、
新しいソリューションを生み出していきたいと思っております。
グリーン化やデジタル化が加速しても、
人を中心とした社会づくりにこだわりつつ、
新たなビジネスや新たなお客さまに貢献するために、
従来のデンソーにはない、全く新しいやり方に果敢に挑戦してまいりたいと思っております。

「非デンソー」とは言っても、すべては大義のためということに変わりはありません。
環境と安心を通じて人と社会を幸せにする、
そのために、デンソーが貢献できることであれば、選択肢は絞らない、
という姿勢で臨んでまいります。
モビリティから、モノづくり、ソサエティまで幅広くカバーし、
社会に共感いただけるような新しいデンソーとして、
インパクトある価値をお届けする、
それによって、人と社会の幸せに貢献できればと思います。

それでは、この後、弊社ならではの貢献の仕方や具体的な戦略について、
ご説明させていただきたいと思っております。
環境については、篠原より、
安心については、加藤より、
ソフトウェアについては、林より、
財務については、松井より、ご説明させていただきます。
皆さまとの対話は、4名の説明の後に、まとめて設けさせていただきます。